

南砺市山田川の生物調査にあたって

福田 保

An outline on the survey of Yamadagawa River and its watershed, Nanto-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Tamotsu Fukuda

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにするとともに会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年（平成18年）より共同で生物調査を実施してきた。県内を新川、富山、高岡、砺波の4地区に分け、順に比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの8回は以下のとおりである。

- 第1回 2006年砺波地区 南砺市（平村）猫池
 - 第2回 2007年新川地区 魚津市角川
 - 第3回 2008年高岡地区 氷見市余山川
 - 第4回 2009年富山地区 立山町栃津川
 - 第5回 2010年砺波地区 小矢部市洪江川
 - 第6回 2011年新川地区 入善町舟川
 - 第7回 2012年高岡地区 氷見市仏生寺川
 - 第8回 2013年富山地区 富山市黒川
- 本年度は南砺市の山田川を選定した。

山田川は、南砺市城端町の細尾峠（ほそおとうげ、標高740m）の西を源とし、砺波平野の南部を約21km北流し、南砺市福野町上川崎で小矢部川に合流する。たくさんの支流を含み、右岸側には二ツ屋川（ふたっちゃんがわ、高落葉山西部を源とし人喰谷をもつ流長約5.5km）、打尾川（うつおがわ、高落葉山を源とし夫婦滝のある流長約5.5km）、池川（いけがわ、縄ヶ池の水が注ぎ込み流長約7.0km）、赤祖父川（あかそぶがわ、赤祖父山を源に赤祖父溜池をもつ流長約7.0km）、左岸側には大井川（おおいがわ、桜ヶ池をもち流長約12.5km）などである。本流には県営城端ダムが1992年（平成4年）に洪水調節・消流雪用水としてつくられた。この城端ダムの上流部は急峻で地層は新第三紀の礫・砂・泥岩や安山岩質凝灰岩からなり地すべりの多い地帯である。平野部に出ると左岸に3段、右岸に2段の段丘を形成している。

下流の平野部には散居村と圃場整備の進んだ大型水田が広がっている。水田の水確保のために多くのため池が整備されてきた。赤祖父溜池と桜ヶ池は平成22年に「ため池百選」に選出されている。また、県内最初の自然環境保全地域にあってミズバショウの群生地として知られる縄ヶ池を1969年（昭和44年）5月26日に昭和天皇が訪問された。砺波市頼成で第20回全国植樹祭が実施され、午後から縄ヶ池を視察された。その時同伴し、説明されたのは本会二代会長の進野久五郎氏である。

江戸時代、加賀藩はトキ *Nipponia nippon* を矢羽根用としてこの地域に放鳥したが、後に稲作の害鳥扱いされたと聞く。全国でも乱獲と環境の悪化の結果、現在トキは野生絶滅種となった。

また、城端町は1960年代の世界の食糧危機を救うきっかけとなった「小麦農林10号」の生みの親の稲塚権次郎生誕の地でもある。今秋公開予定の映画ロケがこの地域一帯でなされていた。

今回の調査項目は植物（森林群落構造）、水生昆虫、底生無脊椎動物、魚類、両生・爬虫類、哺乳類（ツキノワグマ）などである。合同調査日は2014年6月29日と9月20日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれの調査グループに任せた。

最後に、今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

（富山県生物学会副会長・企画幹事長）

引用文献

- 角川日本地名大辞典、1979. 角川富山県地名大辞典、pp403, 角川書店、東京.
- とやま面白学企画編集会議、2004. 富山の自然再発見、pp68-69, 北日本新聞社、富山.

山田川流域の風景



上流部



山田川(左)と小矢部川(右)の合流点



城端ダム



赤祖父溜池



向野橋より(城端)：山田川(右)と支流の打尾川(左)



砺波平野(縄ヶ池駐車場より)